

肝炎対策推進協議会に 期待すること

2025年10月24日

全国B型肝炎訴訟原告団

梁井朱美

自己紹介～母子感染

- 昭和32年佐賀県で生まれる
- 昭和59年長女出産（感染判明）

昭和60年母子感染防止事業開始

- 昭和61年次女出産
- 平成元年長男出産

自己紹介～体調悪化と治療の始まり

・平成15年 急性増悪

→ゼフィックス投与開始

→耐性変異株によりヘプセラ投与

→治療費が高額に

訴訟への参加～多くの患者とともに

- **東京肝臓友の会の事務局長（当時）高畠さんからの呼びかけで裁判に参加**
 - **裁判を通じて家族以外の肝炎患者と初めて出会う**

提訴後～多くの患者とともに

- 肝炎基本法制定を求める運動、
肝炎対策基本法の制定
→ 薬害肝炎原告団・日肝協の方々との協力
- 肝炎対策推進協議会の開催

基本合意後の活動

- 「**集団予防接種等によるB型肝炎感染拡大の
検証及び再発防止に関する検討会**」委員
→多くの関係者にヒアリング

基本合意後の活動

- **重症者への助成制度**

障害者手帳

肝がん・重度肝硬変医療費助成

**→街頭宣伝、署名、地方議会意見書採択、
請願採択**

基本合意後の活動

- 「様々な生活の場における肝炎ウイルス感染者の人権への望ましい配慮に関する研究」（八橋班）班員
→何年経っても変わらない偏見・差別の実態

肝炎対策推進協議会への期待

- **協議会の原点は「350万人の患者の願い」**
- **地域格差の解消を**
- **助成制度は「患者の身を削った運動の成果」**

最後に

- 患者同士の交流
→ 患者同士のエンパワーメント
- 経験を伝え、制度をより良く
- 声を上げることが希望につながる